3 Windows Server 2003のセットアップ

ストリーミングサーバにMicrosoft® Windows® Server 2003 Standard Edition 日本語版またはMicrosoft® Windows® Server 2003 Enterprise Edition 日本語版(以降、「Windows Server 2003」と呼ぶ)をインストールする手順について説明します。インストールの方法は購入後、初めて電源をONにする場合と再インストールの場合で手順が異なりますので読み分けてください。また、インストール後、障害が起きた際に早く復旧させるために必要なセットアップについても説明しています。

初めて電源をONにするとき(→54ページ) .... ストリーミングサーバを購入後、初めて電源をONにすると、OSがプリインストールされたモデルではハードディスクにインストール済みのOSのセットアップが始まります。セットアップの手順とセットアップ完了後に行う作業について説明します。OSがプリインストールされていないモデルは、「再セットアップ」を参照してください。

再セットアップ(→68ページ) .... OSを再セットアップするときの手順について説明します。また、OSがプリインストールされていないモデルでは、別途OSを購入後、本項を参照してインストールしてください。

HostRAID™について(→80ページ) .... HostRAIDの概要、注意事項、およびセットアップの流れについて説明しています。

初めて電源をONにするとき

箱を開けてからお使いになるまでの手順について、順を追って説明します。再セットアップの際は「再セットアップ」を参照してください。

1 ハードウェアのセットアップ

次の順序でハードウェアをセットアップします。

1. ストリーミングサーバをラックに取り付ける。（→2章）
2. ディスプレイ装置やマウス、キーボードなどの周辺装置をストリーミングサーバに接続する。（→2章）

   重要

   プリンタなどの周辺装置はオペレーティングシステムのセットアップを完了してから接続してください。

3. 添付の電源コードをストリーミングサーバと電源コンセントに接続する。（→2章）
4. ストリーミングサーバの構成やシステムの用途に応じてBIOSの設定を変更する。

   6章に示す設定例を参考にしてください。

   重要

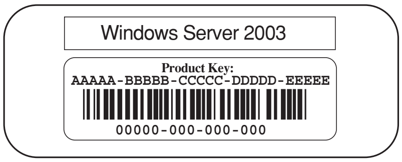
   使用するOSに合わせて正しく設定してください。BIOSのパラメータには、プラグ・アンド・プレイをサポートするかどうかなどの項目もあります。また、日付や時間が正しく設定されているか必ず確認してください。

2 オペレーティングシステムのセットアップ

OSがバンドルされたモデルを購入された場合は、ストリーミングサーバのハードディスクに、お客様がすぐに使えるようにパーティションの設定から、OS（Microsoft Windows Server 2003 Standard Edition 日本語版）、ストリーミングサーバが提供するソフトウェアがすべてインストールされています。

ここでは、購入時にOSがプリインストールされたモデルのセットアップについて説明します。OSがプリインストールされていないモデルの場合は、別途、OSを購入し、この後の「再セットアップ」-「シームレスセットアップ」を参照してインストールしてください。

セットアップを始める前にCD-ROM「EXPRESSBUILDER」と添付のフロッピーディスク(1枚)を用意してください。また、この他に「プロダクトキー」のナンバーをメモしておいてください。



プロダクトキーはストリーミングサーバ本体に貼り付けられているIDラベルに記載されています。Windows Server 2003のセットアップや再インストール時に必ず必要な情報です。剥がしたり汚したりしないよう注意してください。もし剥がれたり汚れたりして見えなくなった場合はお買い求めの販売店または保守サービス会社に連絡してください。あらかじめプロダクトキーの番号をメモし、他の添付品といっしょにメモを保管されることをお勧めします。

セットアップの開始

次の手順でストリーミングサーバを起動して、セットアップをします。

1. 周辺装置、ストリーミングサーバの順に電源をONにし、そのままWindowsを起動する。

   [Windows Server 2003 Standard Edition セットアップ]画面が表示されます。

2. [次へ]ボタンをクリックする。

   [使用許諾契約]画面が表示されます。

3. [同意します]にチェックをして、[次へ]ボタンをクリックする。

   以降、使用者名などの設定画面が次々と表示されます。

4. 画面の指示に従って必要な設定をする。

   セットアップの終了を知らせる画面が表示されます。
   自動的にシステムのアップデートが実行され、[Windows Server 2003セットアップウィザードの完了]ダイアログボックスが表示されます。

5. [完了]ボタンをクリックする。

   再度、ストリーミングサーバが再起動します。
   [Windows Server 2003サーバの構成]ダイアログボックスが表示されたら、OSのインストールは完了です。

デバイスドライバのセットアップとアップデート

本体に標準装備のネットワークとグラフィックスアクセラレータなどについてセットアップまたはアップデートをします。オプションのデバイスでドライバをインストールしていないものがある場合は、オプションに添付の説明書を参照してドライバをインストールしてください。

PROSet

PROSetは、ネットワークドライバに含まれるネットワーク機能確認ユーティリティです。PROSetを使用することにより、以下のことが行えます。

- アダプタ詳細情報の確認
- ループバックテスト、パケット送信テストなどの診断
- Teamingの設定

ネットワークアダプタ複数枚をチームとして構成することで、サーバに耐障害性に優れた環境を提供し、サーバースイッチ間のスループットを向上させることができます。このような機能を利用する場合にPROSetが必要になります。
PROSetをインストールする場合は、以下の手順に従ってください。

1. CD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブにセットする。
2. スタートメニューから[すべてのプログラム]、[アクセサリ]の順にポイントし、[エクスプローラ]をクリックする。
3. 「<CD-ROMのドライブレター>:WINNT¥DOTNET¥BC1¥PROSet¥WS03XP32」ディレクトリ内の[PROSet.exe]アイコンをダブルクリックする。

   [Intel(R) PROSet-Installshield]ウィザードが起動します。
4. [次へ]ボタンをクリックする。
5. 「使用許諾契約の条項に同意します」を選択し、[次へ]ボタンをクリックする。
6. 「標準」を選択し、[次へ]ボタンをクリックする。
7. [インストール]ボタンをクリックする。

   [InstallShieldウィザードを完了しました]ウィンドウが表示されます。
8. [完了]ボタンをクリックする。
9. システムを再起動する。

以上で完了です。

ネットワークドライバ

標準装備の2つのネットワークドライバは、自動的にインストールされますが、それぞれ転送速度とDuplexモードの設定が必要です。

ヒント

サービスの追加にて、[ネットワークモニタ] を追加することをお勧めします。[ネットワークモニタ] は、[ネットワークモニタ] をインストールしたコンピュータが送受信するフレーム(またはパケット)を監視することができます。ネットワーク障害の解析などに有効なツールです。インストールの手順は、この後の「障害処理のためのセットアップ」を参照してください。

1. [Intel PROSet]ダイアログボックスを表示させる。

   □ 標準のスタートモードの手順

   スタートメニューから[コントロールパネル]→[Intel PROSet]をクリックする。

   □ クラシックスタートモードの手順

   ① スタートメニューから[設定]→[コントロールパネル]をクリックする。

   ② [Intel PROSet]アイコンをダブルクリックする。

2. リスト中の[Intel(R) PRO/1000MT Network Connection]をクリックして選択する。

3. [速度]タブをクリックし、リンク速度とデュプレックス設定をHUBの設定と同じ値に設定する。

4. 続けて、リスト中の[Intel(R) PRO/1000MT Network Connection#2]をクリックして選択する。

5. [速度]タブをクリックし、リンク速度とデュプレックス設定をHUBの設定と同じ値に設定する。

6. [Intel PROSet]ダイアログボックスの[適用]をクリックし、[OK]をクリックする。

以上で完了です。

また、必要に応じてプロトコルやサービスの追加/削除をしてください。[ネットワークとダイヤルアップ接続]からローカルエリア接続のプロパティダイアログボックスを表示させて行います。

アダプタ フォルト トレランス(AFT)/アダプティブ ロード バランシング(ALB)のセットアップ

アダプタ フォルト トレランス(AFT)とは、複数のアダプタでグループを作り、使用されているアダプタに障害が発生した場合自動的にグループ内の他のアダプタに処理を移行させるものです。
また、アダプティブ ロード バランシング(ALB)とは、複数のアダプタでグループを作り、サーバからの送信パケットをグループすべてのアダプタから行うことにより、スプールパケットを向上させるものです。この機能はAFT機能を含んでいます。

AFT/ALB機能を使用する場合は、以下の手順に従ってセットアップしてください。

重要

- **AFT/ALBのセットアップは、ドライバインストール後、必ず再起動した後に行う必要があります。**
- **Adapter Teaming(AFT)のグループとして指定するアダプタは、同一ハブまたはスイッチ、異なるハブまたはスイッチのどちらの接続でも使用できます。異なるハブまたはスイッチに接続する場合は、すべて同一LAN(同一セグメント)上に存在する必要があります。また、接続はカスケード接続としてください。**
- **Adapter Teaming(ALB)のグループとして指定するアダプタは、すべて同一LAN上に存在する必要があります。別々のスイッチに接続した場合は正常に動作しません。**

1. [コントロールパネル]ダイアログボックスで、[Intel(R) PROSet]アイコンをダブルクリックする。

   [Intel(R) PROSet]ダイアログボックスが表示されます。

2. リスト中の「Intel(R) PRO/1000MT Network Connection」にマウスポインタを合わせ、右クリックする。

   プルダウンメニューが表示されます。

3. [チームに追加]を選択し、[新規チームを作成]ボタンをクリックする。

   [チーム化ウィザード]ダイアログボックスが表示されます。

4. 「アダプタ フォルト トレランス」または「アダプティブ ロード バランシング」を選択し、[次へ]ボタンをクリックする。

5. [次へ]ボタンをクリックする。

6. チームにするアダプタをチェックし、[次へ]ボタンをクリックする。

7. [完了]ボタンをクリックする。

   [Intel(R) PROSet]ダイアログボックスに戻ります。

8. [適用]ボタンをクリックし、[OK]ボタンをクリックする。

9. システムを再起動する。

グラフィックスアクセラレータドライバ

グラフィックスアクセラレータドライバは自動的にインストールされます。

オプションのネットワークボードのドライバ

オプションのネットワークボード(N8104-84/103/86/111)を使用する場合は、N8104-84/103/はドライバが自動的にインストールされますのでボード添付のドライバを使用しないでください。

N8104-86/111を使用する場合は、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに格納されているドライバをインストールしてください。

N8104-86/111の場合

「<CD-ROMドライブレター>:¥WINNT¥DOTNET¥BC1¥PRO100¥WS03XP32」

インストール手順が不明な場合は、「Microsoft Windows Server 2003 インストレーションサプリメントガイド」のネットワークドライバのインストール手順を参照してください。

N8104-103を使用する場合は、PROSetを起動し、[詳細設定]タブより「TCPセグメンテーションのオフロード」の値を「オフ」にしてご使用ください。

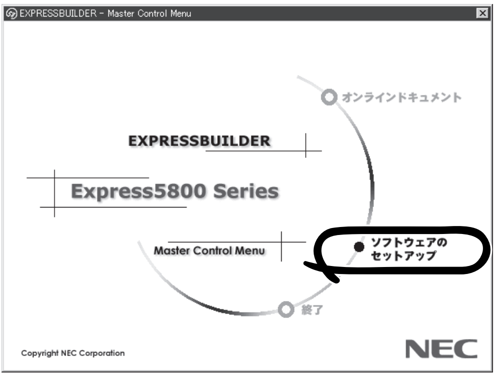
3　システムのアップデート

システムのアップデートは、各デバイスのドライバのアップデートを行うものです。プレインストールモデルや、OSのインストールを指定されて購入された場合には自動で適用されますが、次のような場合は、必ずシステムのアップデートを行ってください。

- システムの修復を行った場合
- システムの構成を変更した場合
- OSを新規にインストールした場合
- CPUを増設した場合
- バックアップ媒体からシステムをリストアした場合
（Service Pack関連のExpress5800用差分モジュールを適用したシステムの場合は、再度RURのフロッピーディスクを使用してExpress5800用差分モジュールを適用してください。このときService Packを再適用する必要はありません。）

管理者権限のあるアカウント（Administratorなど）でシステムにログインした後、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」をストリーミングサーバのCD-ROMドライブにセットしてください。

表示された画面「マスターコントロールメニュー」の［ソフトウェアのセットアップ］を左クリックし、メニューから［システムのアップデート］をクリックすると起動します。以降は画面に表示されるメッセージに従って処理を進め、ドライバのアップデートを行ってください。



4 障害処理のためのセットアップ

障害が起きたとき、より早く、確実に障害から復旧できるように、あらかじめ次のようなセットアップをしておいてください。

メモリダンプ(デバッグ情報)の設定

ストリーミングサーバ内のメモリダンプ(デバッグ情報)を採取するための設定です。

重要

メモリダンプの注意

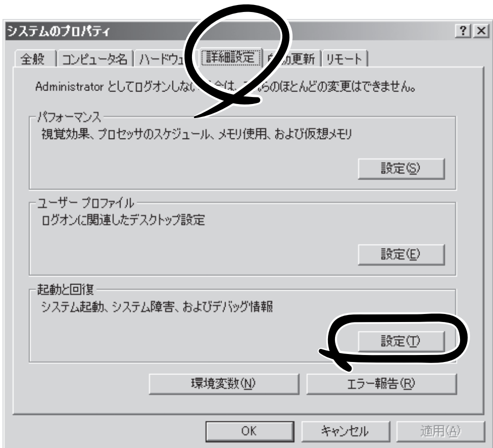
- **メモリダンプの採取は保守サービス会社の保守員が行います。お客様はメモリダンプの設定のみを行ってください。**
- **ここで示す設定後、障害が発生し、メモリダンプを保存するために再起動すると、起動時に仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示される場合がありますが、そのまま起動してください。起動し直すと、メモリダンプを正しく保存できない場合があります。**

次の手順に従って設定します。

1. スタートメニューから[コントロールパネル]を選び、[システム]をクリックする。

   [システムのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

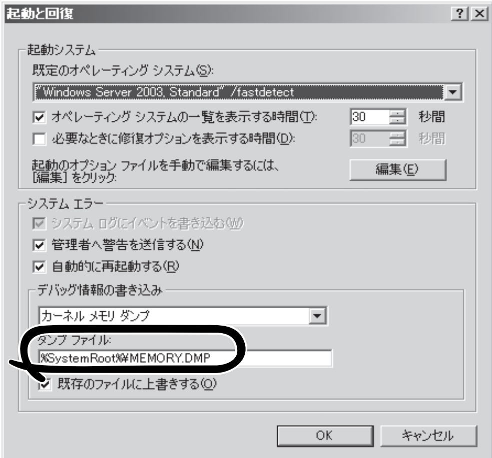
2. [詳細設定]タブをクリックする。
3. [起動と回復]ボックスの[設定]ボタンをクリックする。



4. テキストボックスにデバッグ情報を書き込む場所を入力する。

<Dドライブに「MEMORY.DMP」というファイル名で書き込む場合>

D:¥MEMORY.DMP

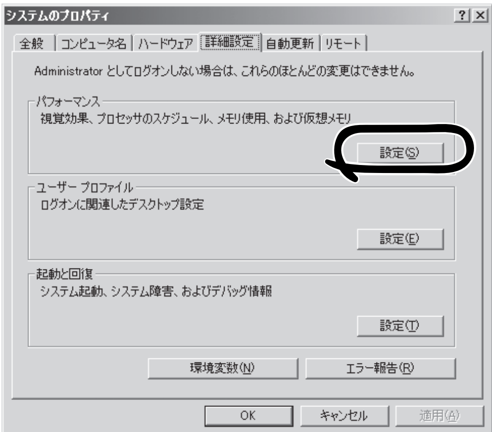


重要

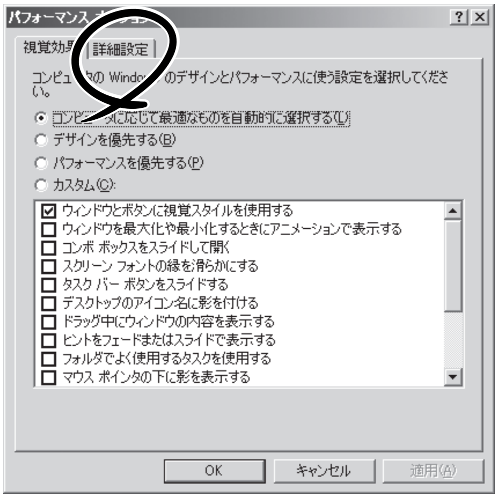
- デバッグ情報の書き込みは[完全メモリダンプ]を指定することを推奨します。ただし、搭載メモリサイズが2GBを越える場合は、[完全メモリダンプ]を指定することはできません(メニューに表示されません)。その場合は、[カーネルメモリダンプ]を指定してください。
- ストリーミングサーバに搭載しているメモリ容量+12MB以上の空き容量のあるドライブを指定してください。
- メモリを増設した場合は、採取されるデバッグ情報(メモリダンプ)のサイズが変わります。デバッグ情報(メモリダンプ)の書き込み先の空き容量を確認してください。なお、搭載メモリサイズが2GB以上の場合のダンプファイルサイズの最大は2048MBとなるので、空き容量は「2048MB+12MB」を目安にしてください。

5. [パフォーマンス]ボックスの[設定]ボタンをクリックする。

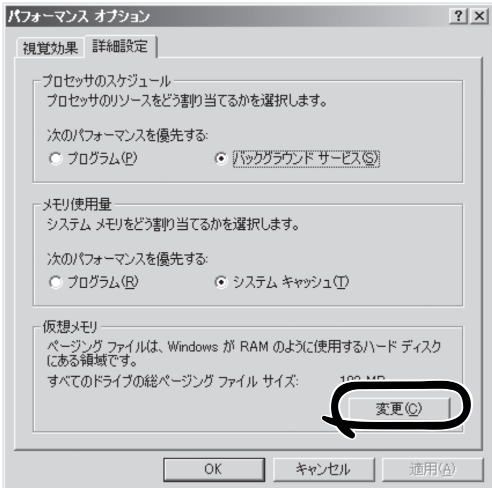
[パフォーマンスオプション]ウィンドウが表示されます。



6. ［パフォーマンスオプション］ウィンドウの［詳細設定］タブをクリックする。

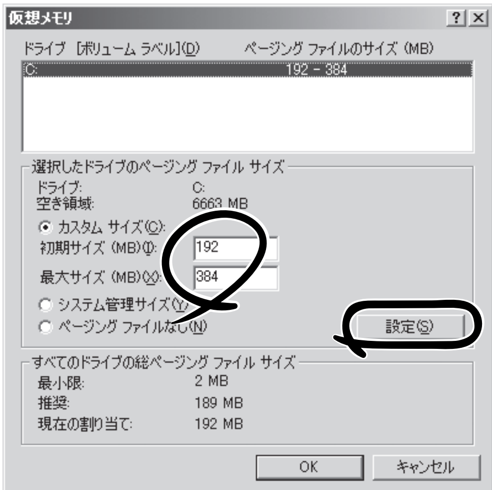


7. ［仮想メモリ］ボックスの［変更］ボタンをクリックする。



8. ［選択したドライブのページングファイルサイズ］ボックスの［初期サイズ］を「推奨」値以上に変更し、［設定］ボタンをクリックする。

ページングファイルの［初期サイズ］は、搭載メモリサイズの約1.5倍を目安に設定してください。



重要

- 必ずOSパーティションに上記のサイズで作成してください。STOPエラー発生時にデバッグ情報(メモリダンプ)を採取するために必要です。ページングファイルの[初期サイズ]を「推奨」値未満に設定すると正確なデバッグ情報(メモリダンプ)を採取できない場合があります。
- メモリを増設した際は、必ずメモリサイズに合わせてページングファイルの再設定を行ってください。
- 障害発生時に備えて、事前にダンプスイッチを押して、正常にダンプが採取できることの確認を行うことをお勧めします。

9. [OK]ボタンをクリックする。

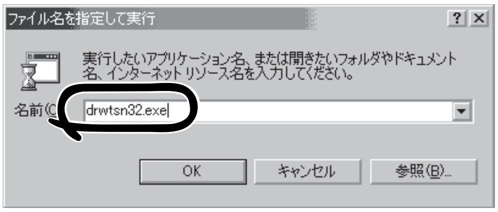
   設定の変更内容によってはシステムを再起動するようメッセージが表示されます。メッセージに従って再起動してください。

ワトソン博士の設定

Windows Server 2003ワトソン博士はアプリケーションエラー用のデバッガです。アプリケーションエラーを検出するとストリーミングサーバを診断し、診断情報(ログ)を記録します。診断情報を採取できるよう次の手順に従って設定してください。

1. スタートメニューの[ファイル名を指定して実行]をクリックする。
2. [名前]ボックスに「drwtsn32.exe」と入力し、[OK]ボタンをクリックする。

   [Windows Server 2003ワトソン博士]ダイアログボックスが表示されます。



3. [ログファイルパス]ボックスに診断情報の保存先を指定する。

   「DRWTSN32.LOG」というファイル名で保存されます。

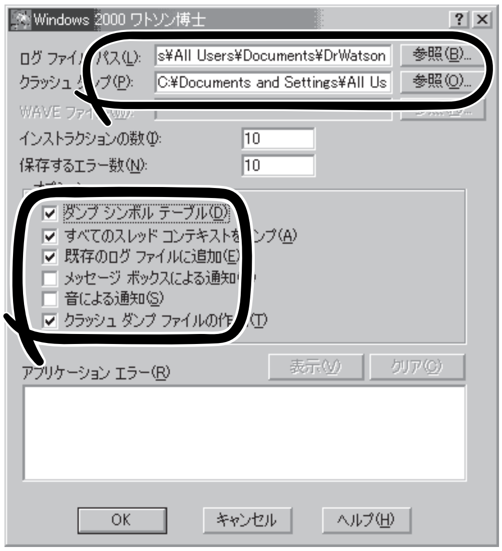
   チェック

   ネットワークパスは指定できません。ローカルコンピュータ上のパスを指定してください。

4. [クラッシュダンプ]ボックスにクラッシュダンプファイルの保存先を指定する。

   ヒント

   「クラッシュダンプファイル」はWindows Debuggerで読むことができるバイナリファイルです。



5. [オプション]ボックスにある次のチェックボックスをオンにする。

□ ダンプシンボルテーブル
□ すべてのスレッドコンテキストをダンプ
□ 既存のログファイルに追加
□ クラッシュダンプファイルの作成

それぞれの機能の説明についてはオンラインヘルプを参照してください。

6. [OK]ボタンをクリックする。

ネットワークモニタのインストール

ネットワークモニタを使用することにより、ネットワーク障害の調査や対処に役立てることができます。ネットワークモニタを使用するためには、インストール後、システムの再起動を行う必要がありますので、障害が発生する前にインストールしておくことをお勧めします。

1. スタートメニューから[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックする。

   [コントロールパネル]ダイアログボックスが表示されます。

2. [アプリケーションの追加と削除]アイコンをダブルクリックする。

   [アプリケーションの追加と削除]ダイアログボックスが表示されます。

3. [Windows コンポーネントの追加と削除]をクリックする。

   [Windows コンポーネント ウィザード]ダイアログボックスが表示されます。

4. コンポーネントの[管理とモニタ ツール]チェック ボックスをオンにして[次へ]ボタンをクリックする。

5. ディスクの挿入を求めるメッセージが表示された場合は、 Windows Server 2003 CD-ROMをCD-ROMドライブにセットして[OK]ボタンをクリックする。

6. [Windows コンポーネント ウィザード]ダイアログボックスの[完了]ボタンをクリックする。

7. [アプリケーションの追加と削除]ダイアログボックスの[閉じる]ボタンをクリックする。

8. [コントロールパネル]ダイアログボックスを閉じる。

ネットワークモニタは、スタートメニューから[プログラム]→[管理ツール] をポイントし、[ネットワークモニタ]をクリックすることにより、起動することができます。
操作の説明については、オンラインヘルプを参照してください。

5　オプション/周辺装置のセットアップ

オプションや周辺装置のデバイスドライバや周辺装置が提供するアプリケーションのインストールや設定については、周辺装置に添付の説明書を参照してください。

6　管理ユーティリティのインストール

OSがプリインストールされたモデルの購入時のハードディスクには、管理ユーティリティがインストールされています。例として次のようなソフトウェアがあります。

- ESMPRO/ServerAgent
- エクスプレス通報サービス
- ESMPRO/UPSController(本ソフトウェアを購入された場合のみ)
- Adaptec Storage Manager - Browser Edition(GSモデルでHostRAIDを使用する場合のみ)

[スタート]メニューの[プログラム]にインストールしたユーティリティのフォルダがあることを確認してください。ユーティリティによっては、お客様でご使用になる環境に合った状態に設定または確認をしなければならないものもあります。5章を参照して使用環境に合った状態に設定してください。
また、その他にもストリーミングサーバ管理用のユーティリティが添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」に収録されています。5章を参照して、必要に応じてインストールしてください。

ヒント

詳細については、5章または装置に添付されている別冊の説明書などを参照して使用環境に合った状態に設定してください。
また、ユーティリティには、ネットワーク上の管理PCにインストールするものもあります。詳しくは5章を参照してください。

重要

再セットアップを行ったときやOSを別途購入したモデルのセットアップをしたときは、個別にインストールしてください。(一部、シームレスセットアップの設定によってOSと一緒に自動でインストールされるものもあります。)

7　システム情報のバックアップ

システムのセットアップが終了した後、オフライン保守ユーティリティを使って、システム情報をバックアップすることをお勧めします。
システム情報のバックアップがないと、修理後にお客様の装置固有の情報や設定を復旧（リストア）できなくなります。次の手順に従ってバックアップをしてください。

1. 3.5インチフロッピーディスクを用意する。

2. CD-ROM「EXPRESSBUILDER」をストリーミングサーバのCD-ROMドライブにセットして、再起動する。

   EXPRESSBUILDERから起動して「EXPRESSBUILDERトップメニュー」が表示されます。

3. ［ツール］ー［オフライン保守ユーティリティ］を選ぶ。

4. ［システム情報の管理］から［退避］を選択する。

   以降は画面に表示されるメッセージに従って処理を進めてください。

再セットアップ

システムの破損などが原因でオペレーティングシステム(OS)を起動できなくなった場合などにここで説明する手順に従ってストリーミングサーバを再セットアップしてください。

ヒント

再セットアップをする前にシステムの修復を試してみてください。詳しくは7章をご覧ください。

本装置では、「シームレスセットアップ」と呼ぶ方式により、自動的に装置をセットアップします。詳細な手順については、この後の説明を参照してください。

ヒント

- シームレスセットアップ以外のセットアップ方法については、78ページの「応用セットアップ」で説明しています。
- 本体にディスクアレイコントローラなどのRAIDボードやSCSIボード(「大容量記憶装置コントローラ」と呼ぶ)を搭載し、システムディスクとして使用するハードディスクを接続している場合は、78ページの「応用セットアップ」を参照してください。

シームレスセットアップ

EXPRESSBUILDERの「シームレスセットアップ」機能を使ってストリーミングサーバをセットアップします。

「シームレスセットアップ」とは、ハードウェアの内部的なパラメータや状態の設定からWindows Server 2003、各種ユーティリティのインストールまでを添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」を使って切れ目なく(シームレスで)セットアップできるストリーミングサーバ独自のセットアップ方法です。ハードディスクを購入時の状態と異なるパーティション設定で使用する場合やOSを再インストールする場合は、シームレスセットアップを使用してください。煩雑なセットアップをこの機能が代わって行います。

シームレスセットアップは、セットアップを開始する前にセットアップに必要な情報を編集しフロッピーディスクに保存し、セットアップの際にその情報を逐一読み出して自動的に一連のセットアップを進めるというものです。このとき使用されるフロッピーディスクのことを「セットアップパラメータFD」と呼びます。

ヒント

- 「セットアップパラメータFD」とはシームレスセットアップの途中で設定・選択する情報が保存されたセットアップ用ディスクのことです。

  シームレスセットアップは、この情報を元にしてすべてのセットアップを自動で行います。この間は、ストリーミングサーバのそばにいて設定の状況を確認する必要はありません。また、再インストールのときに前回使用したセットアップパラメータFDを使用すると、前回と同じ状態にストリーミングサーバをセットアップすることができます。
- セットアップパラメータFDはEXPRESSBUILDERパッケージの中のブランクディスクをご利用ください。
- セットアップパラメータFDはEXPRESSBUILDERにある「ExpressPicnic®」を使って事前に作成しておくことができます。

  事前に「セットアップパラメータFD」を作成しておくと、シームレスセットアップの間に入力や選択しなければならない項目を省略することができます(セットアップパラメータFDにあるセットアップ情報は、シームレスセットアップの途中で作成・修正することもできます)。ストリーミングサーバの他にWindows 95/98、Windows NT 3.51以降、Windows 2000またはWindows Server 2003で動作しているコンピュータがお手元にある場合は、ExpressPicnicを利用してあらかじめセットアップ情報を編集しておくことをお勧めします。

  ExpressPicnicを使ったセットアップパラメータFDの作成方法については、5章で説明しています。

OSのインストールについて

OSのインストールを始める前にここで説明する注意事項をよく読んでください。

本装置がサポートしているOSについて

Windows Server 2003の中でストリーミングサーバがサポートしているOSは「Microsoft® Windows® Server 2003 Standard Edition 日本語版」と「Microsoft® Windows® Server 2003 Enterprise Edition 日本語版」です(以降、「Windows Server 2003」と呼ぶ)。

BIOSの設定について

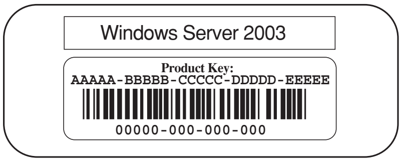
Windows Server 2003をインストールする前にハードウェアのBIOS設定などを確認してください。6章を参照して設定してください。

インストールに必要なもの

以下のものを用意してください。

- EXPRESSBUILDER(CD-ROM)
- Microsoft Windows Server 2003 Standard Edition CD-ROMまたはMicrosoft Windows Server 2003 Enterprise Edition CD-ROM
- Microsoft Windows Server 2003 Service Pack CD-ROM(Service Packを適用する場合)
- セットアップパラメータFD(または1.44MBフォーマット済みの3.5インチフロッピーディスク1枚)
- ユーザーズガイド(本書)

「プロダクトキー」を確認しておいてください。
OSがバンドルされていたストリーミングサーバのプロダクトキーはストリーミングサーバ本体に貼り付けられているIDラベルに記載されています。
別途OSを購入した場合は、OSのCDケースに記載されています。



Windows Server 2003について

Windows Server 2003は、シームレスセットアップでインストールできます。ただし、次の点について注意してください。

重要

- **インストールを始める前にオプションの増設やストリーミングサーバ本体のセットアップ(BIOSやオプションボードの設定)をすべて完了させてください。**
- **別売のソフトウェアパッケージにも、インストールに関する説明書が添付されている場合がありますが、本装置へのインストールについては、本書の説明を参照してください。**
- **シームレスセットアップを完了した後に56ページを参照してデバイスドライバのセットアップとアップデートを行ってください。**
- **シームレスセットアップを完了した後に61ページを参照して「メモリダンプの設定」などの障害処理のための設定をしてください。**

ハードディスクの接続について

OSをインストールしないハードディスクは、OSをインストール後に接続してください。

ミラー化されているボリュームへのインストールについて

[ディスクの管理]を使用してミラー化されているボリュームにインストールする場合は、インストールの実行前にミラー化を無効にして、ベーシックディスクに戻し、インストール完了後に再度ミラー化してください。

ミラーボリュームの作成あるいはミラーボリュームの解除、および削除は[コンピュータの管理]内の[ディスクの管理]から行えます。

作成するパーティションサイズについて

システムをインストールするパーティションの必要最小限のサイズは、次の計算式から求めることができます。

インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ + ダンプファイルサイズ

インストールに必要なサイズ	= 2900MB
ページングファイルサイズ(推奨)	= 搭載メモリサイズ × 1.5
ダンプファイルサイズ	= 搭載メモリサイズ + 12MB

重要

- **上記ページングファイルサイズはデバッグ情報(メモリダンプ)採取のために必要なサイズです。ページングファイルサイズの初期サイズを「推奨」値未満に設定すると正確なデバッグ情報(メモリダンプ)を採取できない場合があります。**
- **1つのパーティションに設定できるページングファイルサイズは最大で4095MBです。搭載メモリサイズ x 1.5倍のサイズが4095MBを超える場合は、4095MBで設定してください。**
- **搭載メモリサイズが2GB以上の場合のダンプファイルサイズは、[2048MB+12MB]です。**

例えば、搭載メモリサイズが512MBの場合、必要最小限のパーティションサイズは、上記の計算方法から

2900MB + (512MB × 1.5) + (512MB + 12MB) = 4192MB

となります。

ヒント

シームレスセットアップでインストールする場合、必要最小限のパーティションサイズは、以下のように計算してください。

「上記の必要最小限のパーティションサイズ」もしくは「4095MB」のうちどちらか大きい方

ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクへの再インストールについて

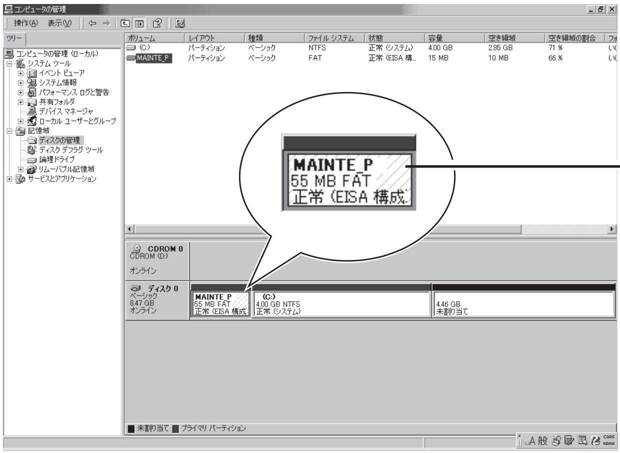
ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクの既存のパーティションを残したままでの再インストールはできません。

既存のパーティションを残したい場合は、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」に格納されているオンラインドキュメント「インストレーションサプリメントガイド」を参照して再インストールしてください。

インストレーションサプリメントガイドにもダイナミックディスクへのインストールに関する注意事項が記載されています。

ディスク構成について(「MAINTE_P」と表示されている領域について)

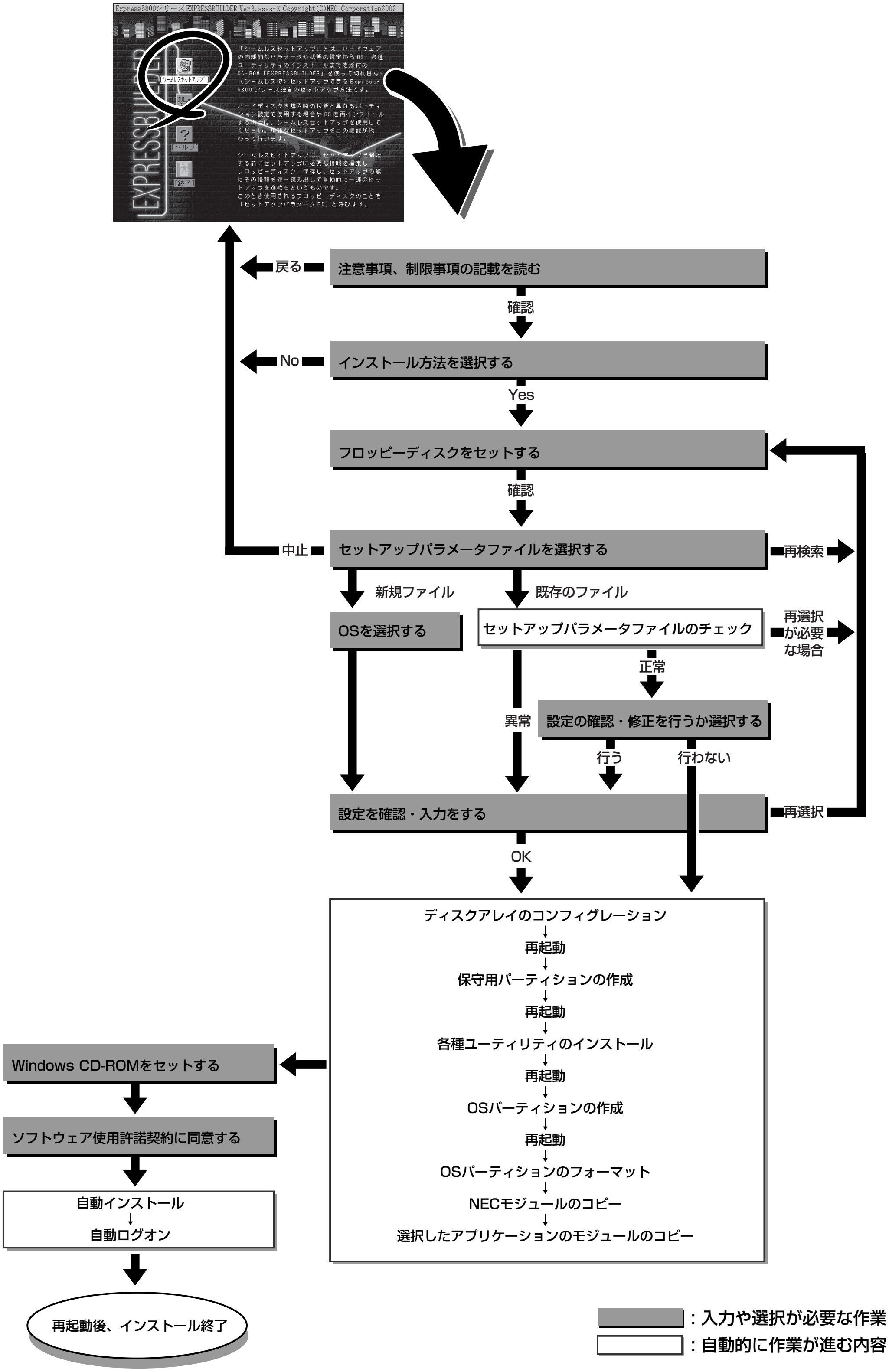
ディスク領域に、「MAINTE_P」と表示された領域が存在する場合があります。



「MAINTE_P」
構成情報やユーティリティを保存するための保守用パーティションです。削除しないでください。

セットアップの流れ

シームレスセットアップで行うセットアップの流れを図に示します。



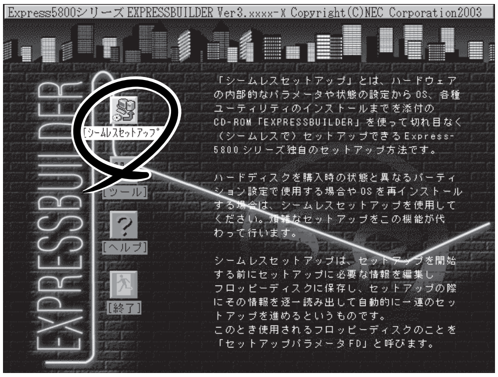
セットアップの手順

次にシームレスセットアップを使ったセットアップの手順を説明します。
セットアップパラメータFDを準備してください。事前に設定したセットアップパラメータFDがない場合でもインストールはできますが、その場合でもMS-DOS 1.44MBフォーマット済みのフロッピーディスクが1枚必要となります。セットアップパラメータFDはEXPRESSBUILDERパッケージの中のブランクディスクを使用するか、お客様でフロッピーディスクを1枚用意してください。

重要 **OSを新規にインストールした場合、システムの構成を変更した場合は60ページを参照して「システムのアップデート」を行ってください。**

1. 周辺装置、ストリーミングサーバの順に電源をONにする。
2. ストリーミングサーバのCD-ROMドライブにCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をセットする。
3. CD-ROMをセットしたら、リセットする（<Ctrl> + <Alt> + <Delete>キーを押す）か、電源をOFF/ONしてストリーミングサーバを再起動する。

   CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。
   しばらくすると「EXPRESSBUILDERトップメニュー」が表示されます。
4. ［シームレスセットアップ］をクリックする。



5. 「セットアップパラメータFD」をフロッピーディスクドライブにセットし、[確認]ボタンをクリックする。

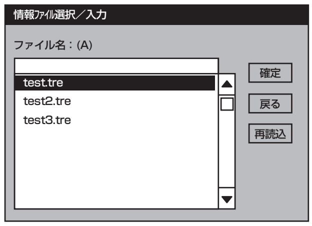
チェック

「セットアップパラメータFD」をお持ちでない場合でも、空の1.44MBのフォーマット済みフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、[確認]ボタンをクリックしてください。

[設定済のセットアップパラメータFDをセットした場合]

セットした「セットアップパラメータFD」内のセットアップ情報ファイルが表示されます。

① インストールに使用するセットアップ情報ファイル名を選択する。



チェック

選択されたセットアップ情報ファイルに修正できないような問題がある場合（たとえばExpressPicnic Ver.4以前で作成される「Picnic-FD」をセットしているときなど）、再度「セットアップパラメータFD」のセットを要求するメッセージが表示されます。セットしたフロッピーディスクを確認してください。

セットアップ情報ファイルを指定すると、「セットアップ情報ファイルのパラメータの確認、修正を行いますか」というメッセージが表示されます。

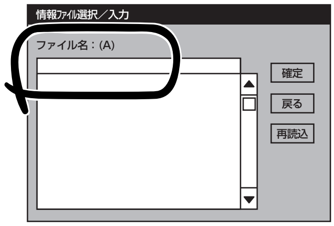
② 確認する場合は［確認］ボタンを、確認せずにそのままインストールを行う場合は、[ｽｷｯﾌﾟ]ボタンをクリックする。

[確認]ボタンをクリック→手順7へ進む
[ｽｷｯﾌﾟ]ボタンをクリック→ 手順8へ進む

[ブランクディスクをセットした場合]

① [ファイル名:(A)]の下にあるボックス部分をクリックするか、<A>キーを押す。

入力ボックスが表示されます。

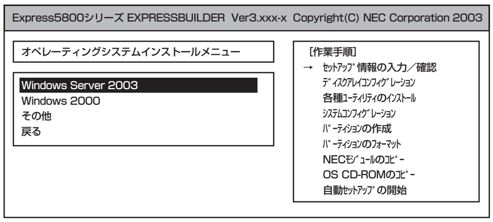


② ファイル名を入力する。

[オペレーティングシステムインストールメニュー]が表示されます。リストには、装置がサポートしているOSが表示されます。

③ リストボックスから[Windows Server 2003]を選択する。

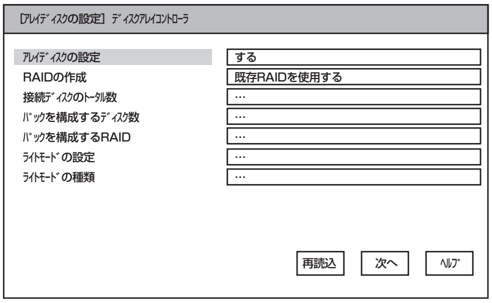
[その他]を選択しないでください。



6. OSのインストール中に設定する内容を確認する。

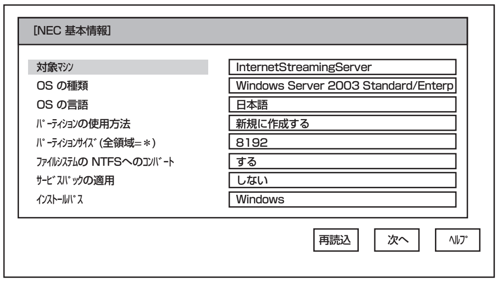
ストリーミングサーバに接続のRAIDコントローラに関する設定を行う[アレイディスクの設定]画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから[次へ]ボタンをクリックしてください。

<表示例>



次に[NEC基本情報]画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから[次へ]ボタンをクリックしてください(画面中の「対象マシン」は機種によって表示が異なります。)

以降、画面に表示される[次へ]、[戻る]、[ﾍﾙﾌﾟ]ボタンをクリックして設定を確認しながら画面を進めてください。設定内容は必要に応じて修正してください。



重要

- OSをインストールするパーティションは、必要最小限以上のサイズで確保してください。
- 「パーティションの使用方法」で「既存パーティションを使用する」を選択すると、最初のパーティション(保守用パーティションを除く)の情報はフォーマットされ、すべてなくなります。それ以外のパーティションの情報は保持されます。下図は、保守用パーティションが用意されている場合に情報が削除されるパーティションを示しています。

第1パーティション <保守用パーティション>	第2パーティション	第3パーティション	第4パーティション
保持	削除	保持	保持

- セットアップの途中で、Windows Server 2003をインストールするパーティションを設定する画面が表示されます。このとき表示される先頭にある55MBの領域は、ストリーミングサーバ特有の構成情報や専用のユーティリティを保存するために使用されるパーティションです。この領域の削除は推奨しませんが、55MBの領域を確保させたくない場合は、マニュアルセットアップでインストールを行ってください。シームレスセットアップでは削除できません。
- 「パーティションの使用方法」で「新規に作成する」を選択したとき、「パーティション」の設定値は実領域以上あるいは120GB以上の値を指定しないでください。
- 「パーティションサイズ」に4095MB以外を指定した場合はNTFSへのコンバートが必要です。
- 「パーティションの使用方法」で「既存パーティションを使用する」を選択したとき、流用するパーティション以外(保守領域を除く)にパーティションが存在しなかった場合、そのディスクの最大領域を確保してWindows Server 2003をインストールします。
- ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクの既存のパーティションを残したまま再インストールすることはできません(71ページ参照)。
- 設定内容に不正がある場合は、次の画面には進めません。
- 前画面での設定内容との関係でエラーとなり、前画面に戻って修正し直さなければならない場合もあります。

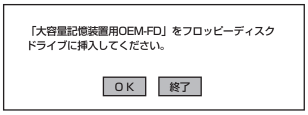
ヒント

- ［NEC基本情報］画面にある［再読込］ボタンをクリックすると、セットアップ情報ファイルの選択画面に戻ります。［再読込］ボタンは、［NEC基本情報］画面にのみあります。
- ［コンピュータの役割］画面にある［終了］ボタンをクリックすると、その後の設定はシームレスセットアップの既定値を自動的に選択して、インストールを行います。

設定を完了すると自動的に再起動します。

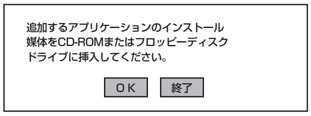
7. オプションの大容量記憶装置ドライバのモジュールをコピーする。

   オプションの大容量記憶装置ドライバをインストールする場合は、大容量記憶装置に添付されているフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、メッセージに従って操作してください。



8. 追加するアプリケーションをインストールする。

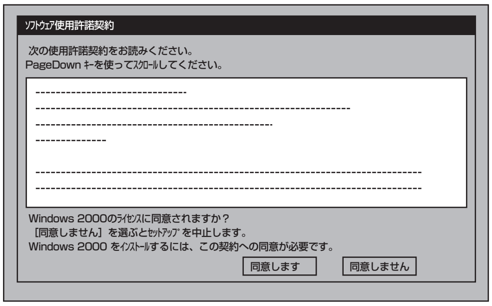
   シームレスセットアップに対応しているアプリケーションを追加でインストールする場合は、メッセージが表示されます。



9. メッセージに従ってCD-ROM「EXPRESSBUILDER」とセットアップパラメータFDをCD-ROMドライブとフロッピーディスクドライブから取り出し、Windows Server 2003 CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

   ［ｿﾌﾄｳｪｱ使用許諾契約］画面が表示されます。

10. よく読んでから、同意する場合は、［同意します］ボタンをクリックするか<F8>キーを押す。同意しない場合は、［同意しません］ボタンをクリックするか<F3>キーを押す。



重要

- **同意しないと、セットアップは終了し、Windows Server 2003はインストールされません。**
- **「Netware用クライアントサービス」をインストールするように設定している場合は、最初のログオン時に「Netware用クライアントサービス」の詳細設定を行うように画面がポップアップされます。適切な値を設定してください。**

11. 本体標準装備のデバイスドライバのインストールやセットアップを行う。

    詳しくは56ページを参照してください。

応用セットアップ

システムの環境やインストールしようとするオペレーティングシステムによっては、特殊な手順でセットアップしなければならない場合があります。

シームレスセットアップ未対応の大容量記憶装置コントローラを利用する場合

最新のディスクアレイコントローラなど、本装置に添付のEXPRESSBUILDERに対応していない大容量記憶装置コントローラが接続されたシステムにおいて、OSの再インストールなどを実施する場合は、次のような手順にてセットアップしてください。

ヒント

ビルド・トゥ・オーダーにより、OS組み込み出荷された状態からセットアップを開始する場合には、本操作を行う必要はありません。

1. セットアップしようとする大容量記憶装置コントローラの取扱説明書を準備する。

   チェック

   本説明書の内容と大容量記憶装置コントローラの取扱説明書との内容が異なる場合は、大容量記憶装置コントローラの取扱説明書を優先してください。

2. ディスクアレイコントローラの場合は、コントローラの取扱説明書に従ってRAIDの設定を行う。

   RAID設定の不要な大容量記憶装置コントローラの場合は、手順3へ進んでください。

3. 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMからシステムを起動させる。

4. シームレスセットアップを実行し、次のような内容に設定されていることを確認する。

   - アレイディスクの設定画面が表示された場合は、［既存のRAIDを使う］をチェックする

     ヒント

     コントローラによっては、設定画面が現れないことがあります。

   - ［大容量記憶装置用OEM-FDの適用をする］をチェックする

     ヒント

     このオプションをチェックすることで、フロッピーディスクで提供されているドライバを読み込ませて、シームレスセットアップを進めることができます。

5. シームレスセットアップの途中で［大容量記憶装置用ドライバ］をコピーする。

   大容量記憶装置コントローラに添付されているフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、以降は画面のメッセージに従って操作してください。



マニュアルセットアップ

ストリーミングサーバへのオペレーティングシステムのインストールは、シームレスセットアップを使用することをお勧めしていますが、特殊なインストールに対応する場合、マニュアルセットアップが必要になることがあります。

シームレスセットアップを使わずにWindows Server 2003をインストールする方法については、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに格納されているオンラインドキュメント「Microsoft Windows Server 2003 Standard Edition/Enterprise Editionインストレーションサプリメントガイド」を参照してください。また、あらかじめEXPRESSBUILDERから、各OS用の「OEMディスク」を作成しておいてください。

チェック　オプションボードを接続する場合は、オプションボードに添付の取扱説明書も併せて参照してください。

サポートディスクとは？

シームレスセットアップを使わずに再セットアップするときの手順「マニュアルセットアップ」では、「Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」と呼ばれるサポートディスクが必要です。

「Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」には、Windows Server 2003のインストールで必要となる本体標準装備のネットワークやディスプレイ用のドライバなどが含まれています。マニュアルセットアップを始める前にWindows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDERを用意してください。

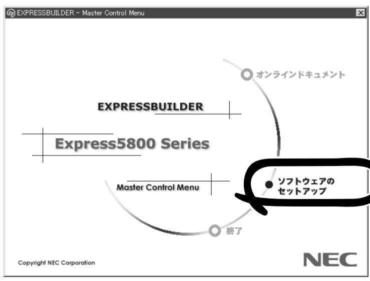
1. 3.5インチフロッピーディスクを1枚用意する。
2. 周辺装置、ストリーミングサーバの順に電源をONにする。
3. ストリーミングサーバのCD- ROMドライブに添付の 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをセットする。
4. CD-ROMをセットしたら、リセットする（<Ctrl>+<Alt>+<Delete>キーを押す）か、電源をOFF/ONしてストリーミングサーバを再起動する。

   CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。
5. ［ツールメニュー］から［サポートディスクの作成］を選択する。
6. ［サポートディスク作成メニュー］から［Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER］を選択する。
7. 画面の指示に従ってフロッピーディスクをセットする。

   「Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」が作成されます。

   作成した「Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」はライトプロテクトをし、ラベルを貼って大切に保管してください。

ストリーミングサーバの他にWindows Server 2003/Windows 2000/XP、またはWindows NT 4.0、Windows 95/98/Meで動作するコンピュータをお持ちの場合は、添付の「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブにセットすると表示される「マスターコントロールメニュー」からWindows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDERを作成することもできます。



HostRAID™について

ここではHostRAIDの概要およびセットアップ手順について説明します。

HostRAIDの概要

HostRAIDとは、システムに標準搭載されたAdaptec Ultra320 SCSIインタフェースを使用し、RAID機能を提供します。
HostRAIDでは、ディスクアレイを制御するドライバとディスクアレイの管理ユーティリティである「Adaptec Storage Manager™ Browser Edition」(以降、ASMBEと略す)から構成されています。
これらのソフトウェアはどちらか一方でも欠けると正常な動作ができません。ドライバは本書のセットアップ手順を参照し、ASMBEは「HostRAID Adaptec Storage Manager Browser Edition ユーザーズマニュアル」を参照して必ず両方のソフトウェアをインストールしてください。

仕様概要

ハードディスク:	1チャネルあたり4ドライブ+1スペアドライブ
RAIDレベル:	RAID 0/RAID 1/RAID 10(0+1)
OS:	Microsoft Windows Server 2003 Standard Edition/Enterprise Edition Microsoft Windows 2000 Server/Advanced Server
ディスクアレイの構築:	BIOSユーティリティ、EXPRESSBUILDER、および管理ユーティリティ

特徴

- ハードディスクの活線挿入(HotSwap)によるホットスワップリビルド機能をサポート。
- BIOSユーティリティにより、チャネル単位でのディスクアレイ/標準SCSIの切り替え可能。
- 管理ユーティリティASMBE(JAVAベース)はブラウザ(IE5.5以上)を使用するため、管理用クライアントPCごとへのクライアントソフトウェアのインストールが不要(サーバへのインストールは必要)。

注意事項

HostRAID全般に関する注意事項について説明します。

BIOSおよびSCSI*Select*ユーティリティに関する注意事項については、本書の6章、またはオンラインドキュメント「SCSI*Select* Utility操作説明書」を、ASMBEに関する注意/制限事項はオンラインドキュメント「HostRAID Adaptec Storage Manager™ Browser Edition ユーザーズマニュアル」を参照し、確認してください。

ヒント

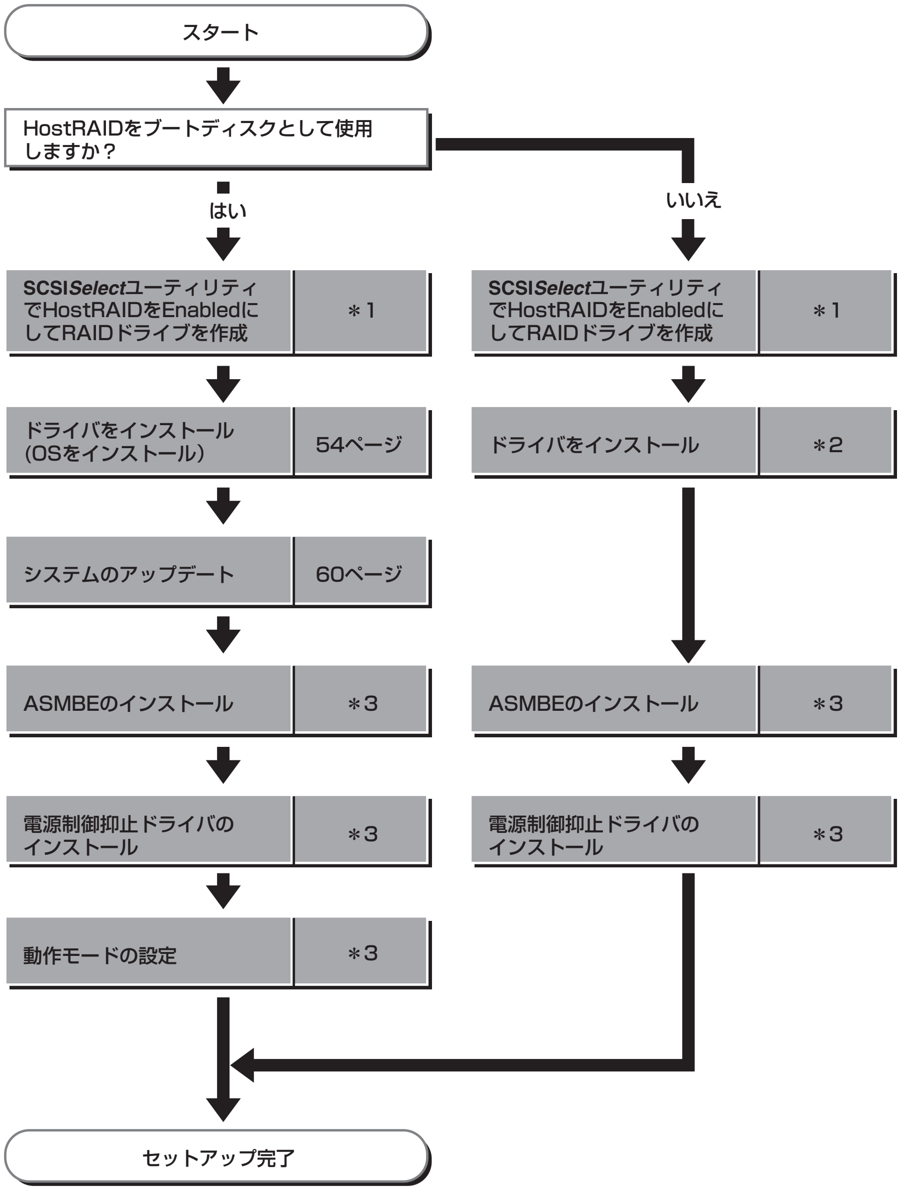
「SCSI*Select* Utility操作説明書」と「HostRAID Adaptec Storage Manager™ Browser Edition ユーザーズマニュアル」は本装置に添付のEXPRESSBUILDER CD-ROMにオンラインドキュメントとして格納されています。

- SCSI BIOSでHostRAID Enabledのチャネルにはハードディスク以外接続できません。ハードディスク以外の装置を使用する場合は、HostRAIDをDisabledとし、標準SCSIとして使用してください。
- HostRAIDの機能を使用するためには、ドライバの登録以外にASMBEのインストールが必須です。ASMBEのインストールについては、「HostRAID Adaptec Storage Manager™ Browser Edition ユーザーズマニュアル」を参照してください。
- ホットスペアを使ったリビルドが行われた場合、再度、リビルドを行ってハードディスクの実装位置とそのディスクを使ったアレイの構成がリビルド前と同様になるようにしてください。この操作を行わないと、ブートのプライオリティが変更になる場合があります。このプライオリティは、SCSI*Select*ユーティリティで変更することは可能です。
- 作成したアレイにはOSのパーティションを作成してください。OSのパーティションが存在しない場合は、システム起動時に、このアレイに対してVerify with Fixが実施される場合があります。
- HostRAIDで使用しているハードディスクを交換する場合は、ハードディスクを取り外してから替わりのハードディスクを取り付けるまでに60秒以上の間隔をあけてください。この間隔が短いと予期せぬ事象が発生するおそれがあります(ASMBE画面でハードディスクの取り外し/取り付けを認識できてから実施することをお勧めします)。
- HostRAIDではACPI機能のスタンバイ/休止モードを使用できません。
- HostRAIDの保守作業はSCSI*Select*ユーティリティを使用せず、ASMBEを使用してください。
- 高負荷運用中にI/Oが遅延し、以下のログがイベントログに登録される場合がありますが、HostRAIDによるリトライ処理でアプリケーションやシステム運用への影響を与えずに通常に動作しています。

イベントソース:	a320raid.sys
イベントID:	9
説明:	デバイス ¥Device¥SCSI¥a320raid＊はタイムアウト期間内に応答しませんでした。 （＊は任意の値）

HostRAIDセットアップの流れ

HostRAIDシステムをセットアップする作業手順の流れは以下のとおりです。



＊1 **SCSI*Select*** Utility操作説明書を参照してください。なお、アレイの作成はEXPRESSBUILDERからも行うことができます。EXPRESSBUILDERからアレイの作成を行う場合は、**SCSI*Select***ユーティリティを使用してHostRAIDの設定を有効（Enabled）にする操作のみ実施してください。

＊2 EXPRESSBUILDERからサポートディスクを作成し、ハードウェアウィザードの中でHostRAIDドライバをインストールしてください。

＊3 HostRAID Adaptec Storage Manager Browser Editionユーザーズマニュアルを参照してください。